



特別賞／審査員奨励賞

「牛さんも錦鯉さんも元気でよかったね」

東京都遊技業協同組合／東京都遊技場組合連合会

平成15年(2003年)の新潟中越地方を襲った大地震による、甚大な被害は記憶に新しい。東京都遊技業協同組合は、いち早く組合員に支援を呼びかけ、被災地に3,000万円を届けたが、250万円の余剰金が発生した。この余剰金の使い方を検討した結果、いのちの絵本『牛さんも錦鯉さんも元気でよかったね』が作られることになった。

青年部会の企画・立案で生まれたいのちの絵本

今回受賞した、いのちの絵本『牛さんも錦鯉さんも元気でよかったね』の企画は、青年部会の発案だった。

そもそものきっかけは、新潟中越地震支援のために、都遊協が台あたり100円ずつの義援金を集めた活動。早急対応を決断、義援金が集まるのを待たずに、新潟県に前倒しで3,000万円を届けた。結果、余剰金が発生し、それをどう使うかは、青年部会に一任されることになる。再度寄付することも含め、検討した結果が、

災害時に幼い子どもたちがどう対応したらよいか、わかりやすく伝えられる絵本、また災害を乗り越えていく強さも伝えられる絵本を作ろうという結論で一致した。

絵を担当したのは、さかもと未明さん。漫画家として活躍する傍ら、近年はエッセイや小説の執筆のほか、モデルや女優、テレビ番組のコメンテーターをこなす、注目の作家である。

年末に販売するチャリティカレンダーを、3年前からさかもと未明さんに依頼していた縁もあり、絵はさかもと未明さんに、文章は絵本作家の春野はなさんに依頼した。

幼稚園や保育園からの感謝の手紙 都からも感謝状が

こうして完成した、いのちの絵本『牛さんも錦鯉さんも元気でよかったね』は、中越地震の報道で繰り返し伝えられた、山古志村の錦鯉や酪農の被害の様子や、復興に取り組んだ多くの人たち

絵本が伝える命の大切さ、災害時の対処 意欲的な活動が生んだ社会貢献の新たな形

の活躍、さらに地震が発生した時の対応が、幼い子どもたちにもわかりやすく描かれている絵本だ。

1万3,000部制作され、東京都内の私立幼稚園855か所、公立幼稚園228か所、公立保育所1,636か所の計2,719か所に、新潟県の私立幼稚園104か所、公立幼稚園45か所、公立保育所783か所の計932か所に各3部ずつ寄贈された。

配布先の保育園や幼稚園から「子どもたちと一緒に災害を考えるきっかけになった」など、お礼の手紙が届き、子どものために購入したいという親からの問い合わせもあったという。

『牛さんも錦鯉さんも元気でよかったね』の寄贈は、都から感謝状も受けたが、その際大切なことを子どもたちに伝える活動を、今後も続けて欲しい旨の期待も寄せられた。

そこで、青年部会では、同じくさかもと未明さんと春野はなさんコンビに依頼し、第二弾『ももちゃん気をつけてね』の刊行を決定。子どもたち自身が、防犯意識を高めるための工夫が紹介されているユニークな絵本だという。



PIVOT基金のキャラクター
PIVOTくん

部会メンバー自身が参加するボランティア活動

青年部会が毎月の幹事会で企画立案し、都遊協の社会貢献活動を担うようになったのは、平成9年(1997年)のナホトカ号の重油流出事故がきっかけである。金銭よりも油を拾う人手が何よりも求められる中、都遊協は人的貢献を決定。青年部会のメンバー20数名が重油撤去作業にボランティアとして参加した。

地元の人々に感謝されるとともに、ボランティア活動の充実感を得た青年部会では、人的貢献の必要性を痛感。その後も、自らが参加しての活動を積極的に行うようになったという。新潟中越地震の時も、まだ余震が続く中、緊急車両特別許可を受け、水と食糧を自前で用意し、被災地へと向かった。

青年部会は平成12年(2000年)に「PIVOT基金」を創設し、ボランティア団体の支援を行っているほか、平成15年(2003年)からは、妊娠中の夫婦や、子育てに関心のある人を対象に、無料で多湖先生の講演とピアノ演奏会に招待する「親子の絆コンサート」にも協力している。



きっかけとなった
チャリティカレンダー



青年部会の幹事会(上)と東京都から感謝状(下)
毎月の幹事会で社会貢献活動の内容を協議する。平成17年(2005年)10月6日、「いのちの絵本」の寄贈に対して、東京都から感謝状が贈られた。



制作された絵本



平成9年(1997年)のナホトカ号の重油流出事故
青年部の精力的な社会貢献活動のきっかけとなった。



新潟中越地震
自前で用意した水と食料を被災地へと届けた有志たち。



「親子の絆コンサート」
ボランティア支援や協賛事業にも積極的に取り組んでいる。



●作者のお二人からの声

いのちの絵本『牛さんも錦鯉さんも元気でよかったね』の反響を、作者のお二人はどう感じているのだろうか。命と災害という題材に、どのような思いを込めて制作したのか。お二人からメッセージをいただきました。

春野はなさんからのメッセージ

生命の絆を子どもたちに伝えたいと考えました。この素敵な活動をもっと知ってもらいたい。

いのちの絵本『牛さんも錦鯉さんも元気でよかったね』に、多くの方から思いもよらないほどの評価をいただき、とてもうれしく思っています。

常日頃、社会の出来事を取り上げて、子どもたちに命の大切さを教えたいと思っていました。そのためには、現実起きた出来事をテーマにし、絵本を見ながら親子の対話ができることが大事だと考えていたのです。

中越地震の被害の様子を伝えるテレビのニュースで、錦鯉を池から救い出しているシーンを見ました。一つの命が救われることで、新しい命が次々と生まれること、生命の絆というものを子どもたちに伝えたいと考えました。

絵も、漫画家らしいドラマティックでファンタジックな描写で、今までにない絵本になりとても気に入っています。

絵本創りという形になった社会貢献活動はとても素晴らしいものだと思います。地味でも長く続けることが大切。この素敵な活動を、たくさんの方、多くの家族の方にもっと知ってもらいたいですね。

いま、この「いのちの絵本」シリーズの次作を創っています。題名は『ももちゃん気をつけてね』。多発する子どもの犯罪被害をテーマに、子どもの目線から防犯のチェックポイントを学ぶことができる絵本です。絵はもちろんさかもとさん。今回も素敵な絵本になりました。たくさんの方々に読んで欲しいと思います。



さかもと未明さんからのメッセージ

できあがった本を見て、本当に感激しました。私にとって絵本の処女作です。

初めてチャレンジした絵本がみなさまから評価をいただき大変うれしく思っております。

以前から絵本を創ってみたいと思い、テーマを探していたころでした。春野さんのストーリーを読ませてもらい、ぜひ描いてみたいと思いました。『牛さんも錦鯉さんも元気でよかったね』は私にとって絵本の処女作です。できあがった本を見たときはほんとうに感激でした。

舞台になった山古志村は闘牛で有名なところで、牛も黒くて強そうなイメージですが、子どもたちに伝えるには、乳牛の方が優しく親しみやすいのではと思い、牧場と乳牛の物語にしました。村の風景は写真集を参考にして描きました。できるだけ絵本らしくない絵本、これまでになかったような絵本にしようと、人物や背景を詳細に描きこみ、子どもたちにわかりやすく、そして想像力をかきたてるようにしてみました。

毎年、チャリティカレンダーのお仕事をしていますが、そのご縁で都遊協の社会貢献に参加させていただき、とても感謝しています。こんな素晴らしい活動が、あまり知られていないのがちょっとやしいカンジ。もっとマスコミに取り上げられ、もっとみんなに知って欲しいと思います。

審査員奨励賞

—選考理由—



社会貢献活動審査委員会 委員 脇田 直枝氏

いつくるかわからない、どんなことが起こるか見当もつかない地震に、大人は手をこまねているのが実情です。まして幼児にどう伝えたらいいのか、いたずらに恐怖心を煽ってもいけないと幼児向け地震教育は手薄になっていました。

この絵本はそんな社会の欠落した部分を補ってくれたのです。

タイトルからは新潟地震の教訓がヒントになっていることが伺われ、リアリティがあり実践的。また、何よりも温かみのあるフレーズとイラストでわかりやすく地震というものへの心構えを身につけさせてくれると思います。オリジナリティのあるアイデアに敬服させられました。